

■矢部定謙 大坂西町奉行として大塩平八郎から弾劾されるも、江戸町奉行となり、“天保暴れ奉行”といわれた気骨の幕臣。

やべさだのり

初の横綱・・1789＝ 旗本矢部定令の子に生まれる。

松平定信引退1793＝ 4歳：

古事記伝・・1798＝ 9歳：

シジ船狼藉・ 1807＝18歳：

伊能測量終・ 1816＝27歳：

水野忠成老中1818＝29歳： 剛直な性格で、若い頃、先輩がいじめようと弁当の残りでお粥を作ることを命じたのに、腹を立て、お粥に灯明の油を入れて先輩に食わせ、大騒ぎとなる。上司に知れて辞表を出したが、かえってその態度が立派であるとして許され、先輩が処罰されている。

シボルト鳴滝塾1824＝35歳： 小姓組番頭・松平乗讓組衆から小十人頭に異動。彦五郎と称する。
異国船打払令1825＝36歳：

シボルト事件・ 1828＝39歳： 先手鉄炮頭に異動し、火付盗賊改を兼帯。

富嶽三十六景1831＝42歳： 堺奉行に異動、在職中、従五位下駿河守に叙任。

天保大飢饉始1833＝44歳： *大坂西町奉行となる。折からの飢饉対策に努める間、元与力で学者の大塩平八郎と会合を持ったため、信頼関係にあったと見られていたが、意見は食い違っていた。在任中、竹島事件の裁定も行っている。

高島砲術・・1834＝45歳： 勘定奉行・勝手方に就任し、江戸に移って500石加贈後、
・・・・・1836＝47歳： *大塩平八郎の乱が発生、大塩が幕府に提出しようとした建議書8カ条のうち、6カ条は矢部を弾劾するもので、矢部が様々な不正を行い、口封じのために証人を殺害したとしているが、この時点では処分されず、
大塩平八郎乱1837＝48歳： *大塩平八郎の乱が発生、大塩が幕府に提出しようとした建議書8カ条のうち、6カ条は矢部を弾劾するもので、矢部が様々な不正を行い、口封じのために証人を殺害したとしているが、この時点では処分されず、

適塾オープン・ 1838＝49歳： 西丸留守居となり、大御所徳川家斉に仕えた。駿河守から左近衛将監に遷任。

勲進帳初演・ 1840＝51歳： 小普請組支配に異動。

天保改革始・ 1841＝52歳： 左近衛将監から駿河守に遷任し、*老中水野忠邦より、江戸南町奉行に取り立てられ、武蔵川越藩、出羽庄内藩、越後長岡藩の三方領知替えを企む水野の命により検証、その結果、領知替えの必要性を認めず、再吟味を具申。また水野が推し進めた天保の改革に北町奉行遠山景元と協同して対抗、当時の価格騰貴に対し、水野や藤田東湖らが株仲間の廃止を求めた際にも、一部の商人の華美な生活態度にも問題があるものの、物流上の様々な制約が最大の一因で、急激な株仲間の廃止は、却って混乱を招いて人々を苦しめると主張。

天保改革弾圧1842＝53歳： *三方領知替えは將軍徳川家慶の裁断により中止となり、江戸町奉行を解任される。大坂町奉行時代の不正、お救い米買い付け事件の調査不正などが理由であったが、主因は水野と対立したために目付島居耀蔵の策謀により罷免されたと見られている。取調中に無実を友人に訴えたことが問題となり、伊勢桑名藩主松平定猷永預かりとなった。お預から三ヶ月後、病死。抗議のため自ら絶食したという説もある。
出羽庄内藩復領の恩人として荘照居成神社(山形県飽海郡遊佐町蔵岡上寺鎮座)の祭神として祀られる。